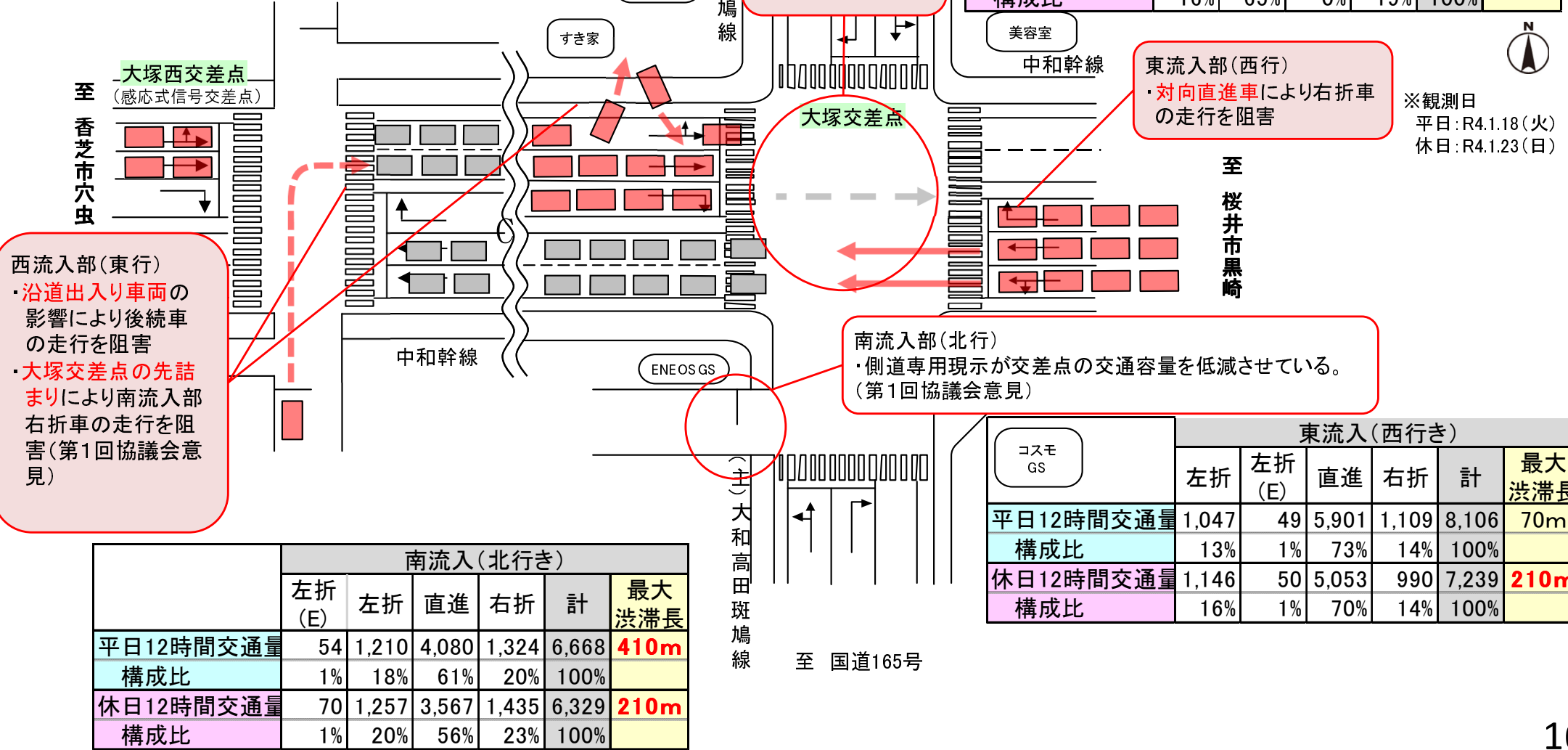


# 大塚交差点(広陵町内)【渋滞要因】

	西流入(東行き)					最大 渋滞長
	左折	直進	右折	右折 (E)	計	
平日12時間交通量	521	5,815	1,278	8	7,622	140m
構成比	7%	76%	17%	0%	100%	
休日12時間交通量	614	5,409	1,239	16	7,278	320m
構成比	8%	74%	17%	0%	100%	

	北流入(南行き)					最大 渋滞長
	左折	直進	右折 (E)	右折	計	
平日12時間交通量	888	4,270	3	857	6,018	50m
構成比	15%	71%	0%	14%	100%	
休日12時間交通量	842	3,394	1	1,002	5,239	500m
構成比	16%	65%	0%	19%	100%	



	南流入(北行き)					最大 渋滞長
	左折 (E)	左折	直進	右折	計	
平日12時間交通量	54	1,210	4,080	1,324	6,668	410m
構成比	1%	18%	61%	20%	100%	
休日12時間交通量	70	1,257	3,567	1,435	6,329	210m
構成比	1%	20%	56%	23%	100%	

	東流入(西行き)					最大 渋滞長
	左折	左折 (E)	直進	右折	計	
平日12時間交通量	1,047	49	5,901	1,109	8,106	70m
構成比	13%	1%	73%	14%	100%	
休日12時間交通量	1,146	50	5,053	990	7,239	210m
構成比	16%	1%	70%	14%	100%	

# 大塚交差点(広陵町内)【令和5年度から実施する渋滞対策の進捗状況と現地状況】

方向	渋滞要因	対策内容	期待される効果	対策実施状況
西行(中和幹線)	○対向直進車により右折車の走行を阻害。また、右折滞留長不足による直進交通の阻害も確認されている。	右折レーンの延伸	右折車両による直進交通阻害の軽減	・対策実施予定(R8年度)

## ○対策イメージ

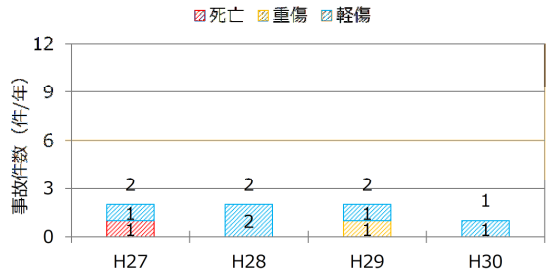


# 磐余東交差点(檀原市内)【事故要因】

- (交差点形状・利用状況) ・交差点が長い直線区間の中央部に位置していることに加え、従道路が1車線道路の小規模な信号交差点。
- (着目すべき事故の特徴) ・①東行・西行流入部での追突事故、②交差点内での右直事故(死亡事故1件)が発生している。

## ○死傷事故件数の推移

使用データ: 県警データ(H27~H30)



## ○位置図

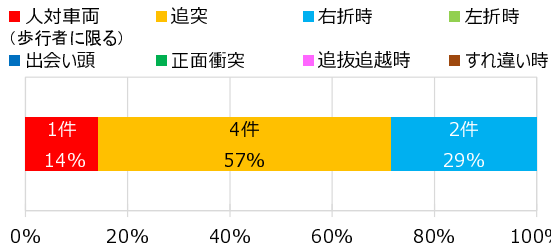


### ②交差点内での右直事故(2件/4年[死亡事故1件])

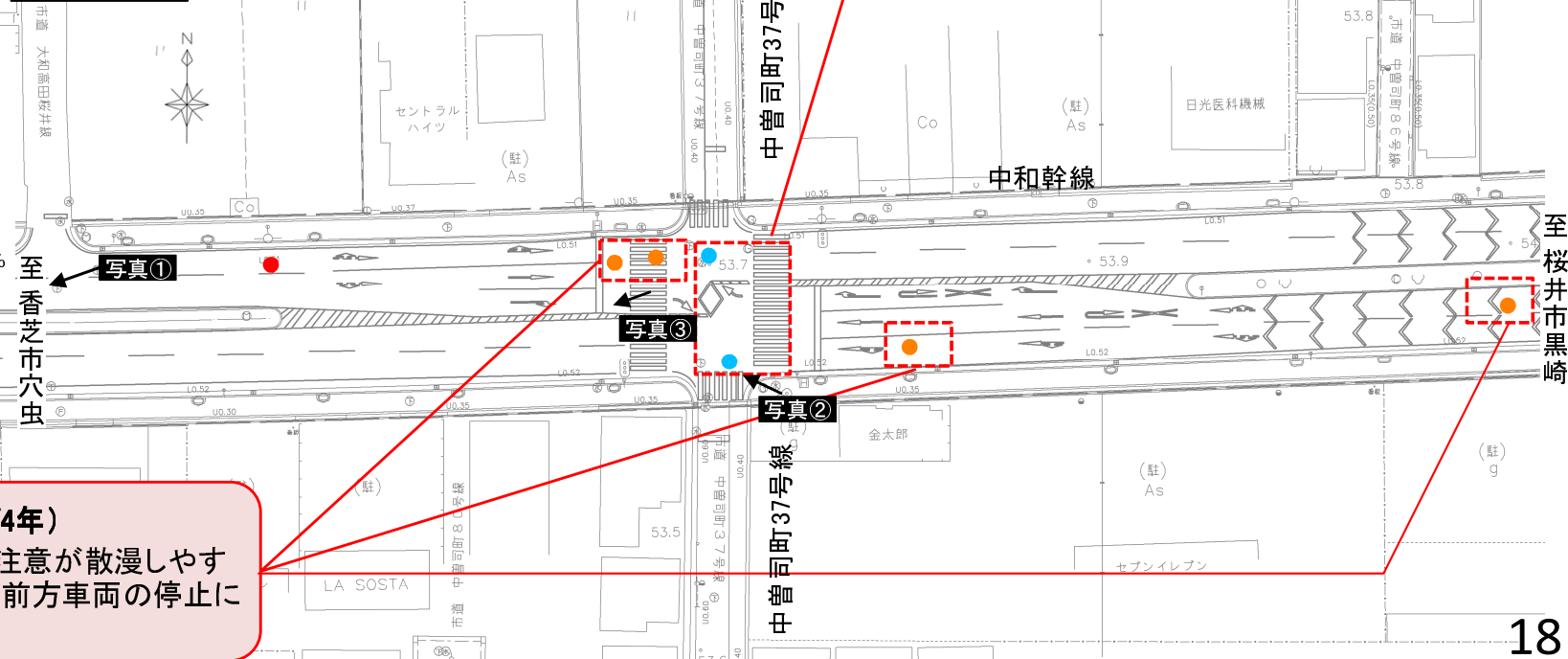
- ・対向直進車は、直線区間で比較的速度が大きいいため、右折車に気づいても減速が間に合わない想定される。
- ・東進右折車は、対向車との接触を避けるよう内回りして右折しようとするが、対向車の速度が大きいいため、間に合わず衝突していると想定される。

## ○類型別事故件数・割合

使用データ: 県警データ(H27~H30)



## ○平面図



### ①東行・西行流入部での追突事故(4件/4年)

- ・交差点は単調な直線区間にあるため、注意が散漫しやすく、交差点への進入速度が大きいことで前方車両の停止に対応が間に合わないと想定される。

# 着目事故の抽出及び事故要因の分析 【磐余東交差点(檀原市内)】<A基準>

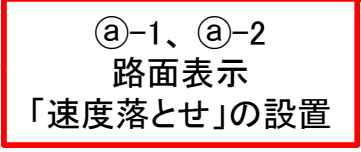
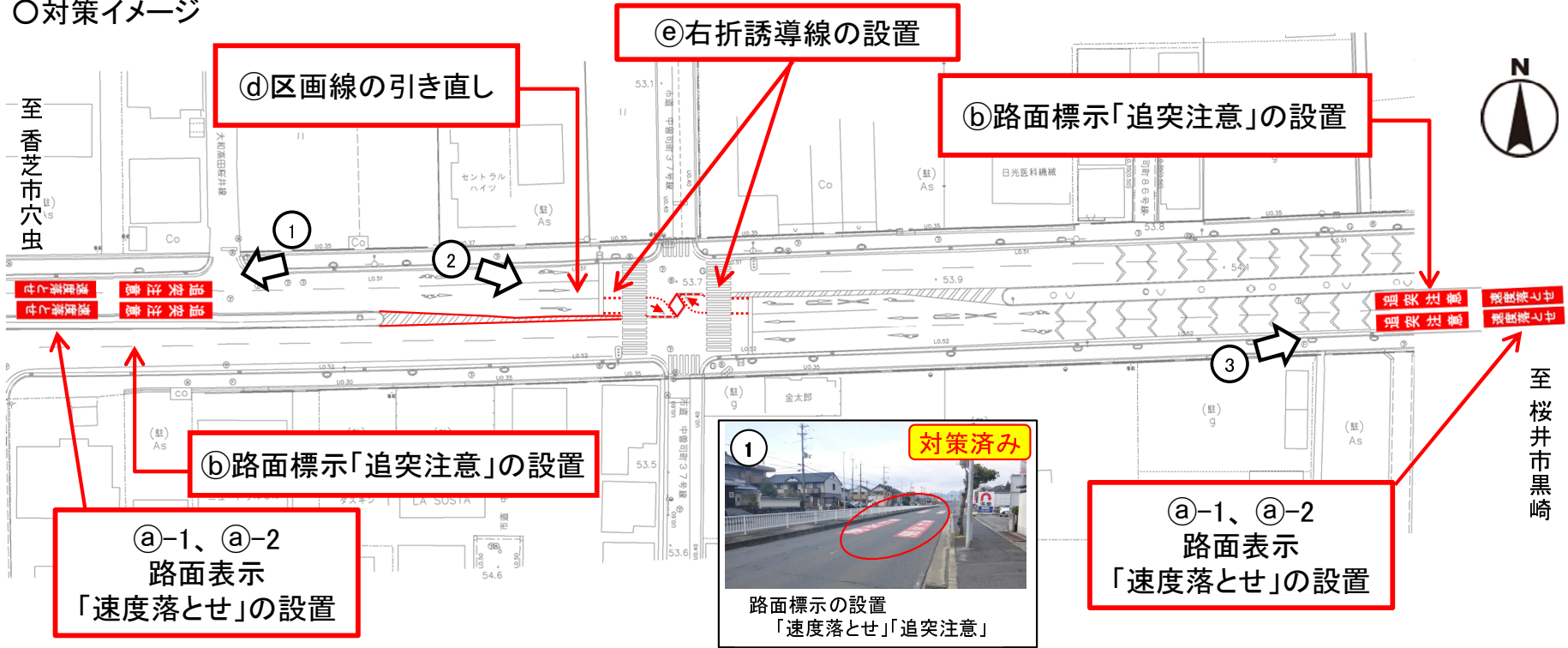
## ○現況状況写真



# 磐余東交差点(檀原市内)【令和5年度から実施した事故対策の進捗状況と現地状況】

方向	事故要因	対策内容	期待される効果	対策実施状況
東行(中和幹線)	○交差点は単調な直線区間にあるため、注意が散漫しやすく、交差点への進入速度が大きいことで前方車両の停止に対応が間に合わない。	①路面標示「速度落とせ」の設置	速度抑制	・対策済み(R6. 3)
		②路面標示「追突注意」の設置	追突への注意喚起	・対策済み(R6. 3)
西行(中和幹線)	○同上	①路面標示「速度落とせ」の設置	速度抑制	・対策済み(R6. 3)
		②路面標示「追突注意」の設置	追突への注意喚起	・対策済み(R6. 3)
交差点内	○対向直進車は、直線区間で比較的速度が大きいため、右折車に気づいても減速が間に合わない。 ○東進右折車は、対向車との接触を避けるよう内回りして右折しようとするが、対向車の速度が大きいため、間に合わず衝突している。	①路面標示「速度落とせ」の設置	速度抑制	・対策済み(R6. 3)
		③区画線の引き直し	右折経路の明確化	・対策済み(R6. 3)
		④右折誘導線の設置	右折経路の明確化	・対策済み(R6. 3)

## ○対策イメージ



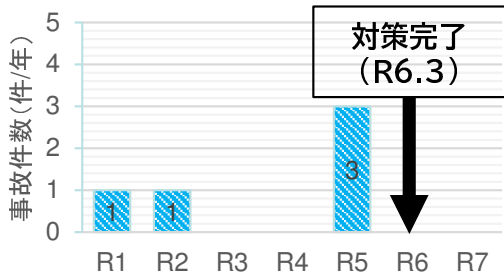
# 着目事故の抽出及び事故要因の分析 (R1~R7の事故状況)

- (交差点形状・利用状況) ・交差点が長い直線区間の中央部に位置していることに加え、従道路が1車線道路の小規模な信号交差点。
- (着目すべき事故の特徴) ・令和6年3月に対策完了後、①東行・西行流入部での追突事故、②交差点内での右直事故は発生していない。

## ○死傷事故件数の推移

使用データ: 県警データ (R1~R7)

■ 軽傷 ■ 重傷 ■ 死亡



対策完了 (R6.3)

対策前 約1件/年

対策後 0件/年

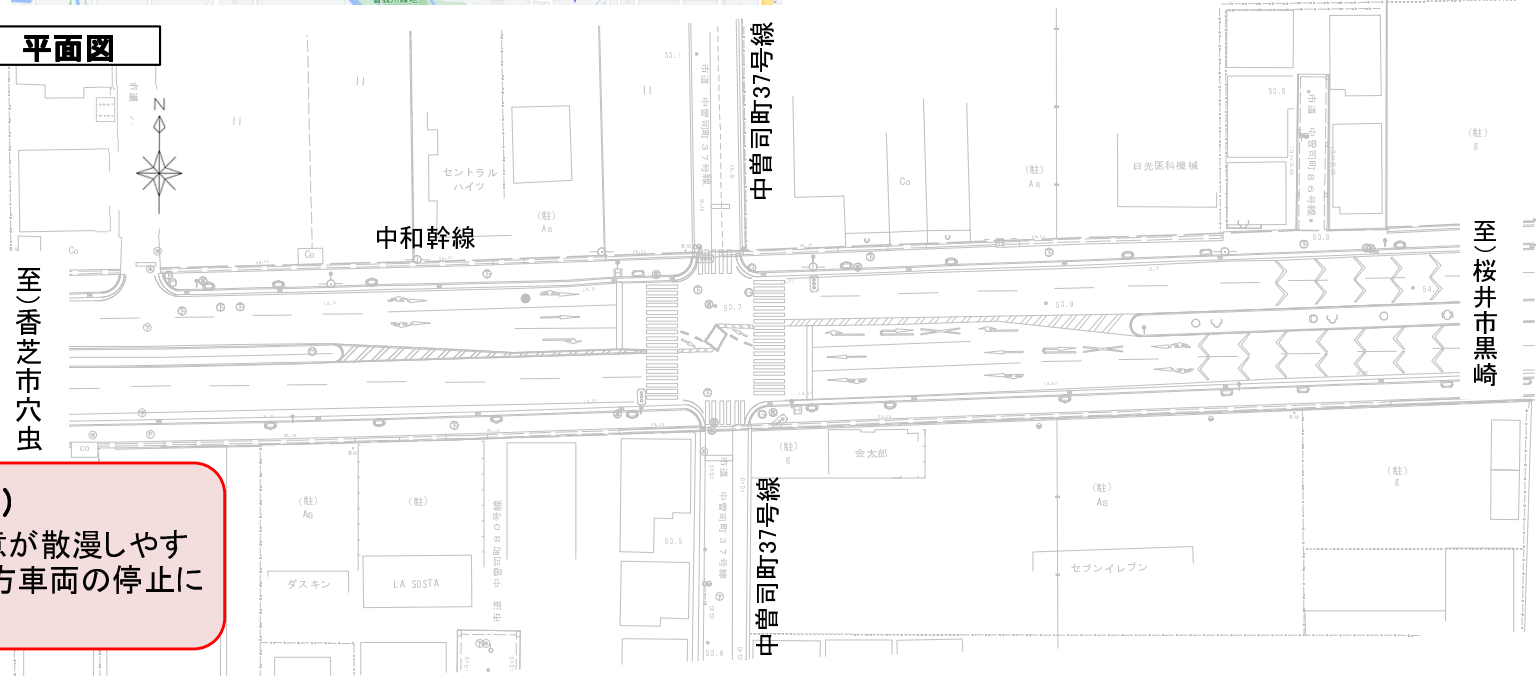
## ○位置図



②交差点内での右直事故 (0件/2年)

- ・対向直進車は、直線区間で比較的速度が大きいため、右折車に気づいても減速が間に合わないと想定される。
- ・東進右折車は、対向車との接触を避けるよう内回りして右折しようとするが、対向車の速度が大きいため、間に合わず衝突していると想定される。

## 平面図



①東行・西行流入部での追突事故 (0件/2年)

- ・交差点は単調な直線区間にあるため、注意が散漫しやすく、交差点への進入速度が大きいことで前方車両の停止に対応が間に合わないと想定される。

対策により、事故件数は減少傾向にあるが、引き続き、モニタリングを実施する。